

ぎくかい



2015.7.17

小国町議会だより 第125号

七夕さまに
おねがいたよ!

おぐに保育園での交流保育のひとつ。七夕飾りの下でハイポーズ!

※最終ページに表紙関連記事



6月定例会 補正予算に修正案出る

- 一般質問に4議員立つ
- 新体制紹介
- 委員会方針決まる

6名 原案どおり可決 否決

平成27年 6月定例会

6月8日(月)～10日(水)

◆一般会計補正予算

補正額 **5787万1千円**

◆補正後の一般会計予算総額

57億5557万1千円

定例会の あらまし

6月定例会は、6月8日から10日の3日間の会期で開催され、各会計の補正予算、契約の締結などを原案どおり可決した。各一般質問では、4名の議員が町政全般について町当局の考えをただした。また、請願1件を採択した。

修正案

多数に届かず

一般会計補正予算は、民間事業者が行う健康増進事業への参加費用補助金に対して、事業評価、検証等において町の関与が薄い、として修正案が提出された。修正案に対する質疑、討論の後に採決が行われ、賛成者は3名にとどまり修正案は否決。補正予算は原案が賛成者6名で可決された。各特別会計、各企業会計補正予算、工事請負契約の締結、人事案件については原案どおり可決された。

解説

補正予算の中で、修正削除を求められたのは、「おぐに白い森(株)」が実施する、温泉施設を利用した高齢者向け健康指導事業への参加費用補助金324万円。

町道松岡大石線道路改良工事

- 場 所 朝篠地内
- 工 期 平成27年12月25日
- 請負業者 大和建設運輸(株)

契約金額 **7668万円**(税込)

町民総合体育館耐震補強工事

- 場 所 岩井沢地内
- 工 期 平成27年12月18日
- 請負業者 (株)高橋工務店

契約金額 **1億4364万円**(税込)

工事請負契約の締結



豆知識

特別会計とは、特定の収入をもって特定の支出に充てるため、一般会計と区分して経理する必要がある場合に設けられるもので、小国町では下水道事業、簡易水道事業、国民健康保険事業などで特別会計を設けています。

一般会計補正予算 賛成 — 修正案は賛成3名で

補正予算質疑

問 健康増進事業を民間業者が行うのは心配だ。専門家を交える準備はあるのか。

健康福祉課長 65歳以上の運動が可能な方へ、温泉施設を利用して介護予防運動指導員による指導を実施する。

問 実施事業者である「おぐに白い森(株)」の事業計画にあがっていない。町長の見解は。

町長 計画段階では具体的な事業名は通常は載らない。第30期事業計画内の「企画部門を強化して、独自の事業展開をする」という中にあると承知している。既に健康教室なども実施している。

問 白い森(株)の事業として、子どもたちに向けた考えも持ってもらいたい。

町長 今回の事業は、医療費負担を抑制するということが目的であり、これ以外にも、各年代、切れ目の無い施策の展開をしていきたい

いと考えている。

問 健康問題では若い世代に対する施策も大事である。今回の事業で利用者への参加費用補助はバラマキ政策にならないか。

町長 計上額は大きいのが、利用者の実数に対する補助なので少なくとも得る。

問 新たな事業に関しては、議会への事前の説明が大事であると思うが。

町長 議長の指示に従い説明の場を持たせてもらう。

5月臨時会

新体制決まる

議長 高野 健人
副議長 安部 春美

第3回小国町議会臨時会は、5月1日に開催された。正・副議長のほか、各常任委員会、議会運営委員会などの議会の構成を決定した。なお、議長・副議長は投票による選挙を行い選任された。

※8ページに詳細記事

請願

年金積立金の安全、
確実な運用に関する
請願について

- 1 年金積立金は、厚生年金保険法等の規定にもとづき、もっぱら被保険者の利益のために、長期的な観点から安全かつ確実な運用を堅持すること。
- 2 これまで安全安心とされてきた国内債券中心の運用方法から、株式等のリスク性資産割合を高める方向での急激な変更は、国民の年金制度に対する信頼を損なう可能性があり、また、国民の財産である年金積立金をき損しかねないため、おこなわないこと。
- 3 年金積立金管理運用独立行政法人において、保険料拠出者である労使をはじめとするステークホルダーが参画し、確実に意思反映できるガバナンス体制を構築すること。

《請願者》

小国地区勤労者連絡協議会

議長 渡部 佳久

全員賛成で採択

採択

豆知識

任期…議長、副議長の任期は4年。また各常任委員会などの任期は2年間。

今年度の「道の駅」活性化は「農産直売所」の計画は検討したか



こせきかずよし 小関和好議員

今年度の「道の駅」活性化計画はあるか

小関 国では、「道の駅」を地方の重要な成長戦略のツールとしてとらえ、県では、自治体の拠点施設としての役割や、ゲートウェイ機能への期待が高まっており、本年度からさらなる「道の駅」の整備方針を示すためのビジョン策定に着手している。小国町は、まさに新潟県からのゲートウェイ（出入口）である。再三申し上げているが、もっと「道の駅」を活性化させ雇用を生むべきと考えるが今年度の活性化のための計画はあるのか。

国・県の情報を収集しながら

総合的に考える

町長 「道の駅」活性化に関しては、「道の駅情報コーナー」に案内人を常設し道路情報大型パネルの設置など情報発信に努めてきた。また、指定管理者の報告によると特産コーナーを充実

させ各種イベントに力を入れ集客拡大と販売強化を図っていると考えている。

スキー場は、昨年から料金改定をして入場客も4万人から8万人と倍増している。防災面からは、電気自動車用急速充電器の設置やペレット・薪ストーブの設置を行った。今年度は、「あいあい」に太陽光パネルと蓄電池を設置し非常用電源として活用していきたいと考えている。昨年、新潟方面から「道の駅」を認識しやすいよう雑木を伐採し環境整備をしている。現在、国においては、道の駅を地方創生の拠点となるよう関係省庁・関係機関との連携強化に取り組んでいるので、情報を収集したいと考えている。なお、新潟山形南部連絡道路の整備環境が前進しているのでルートやインターチェンジの整備をにらみながら、総合的な見地から検討したいと考えている。

小関 新潟山形南部連絡道路の完成までは、とても待

ってはられない早急に活性化計画を実行するべきと考える。

「農産直売所」の新たな建設に向けての検討状況は

小関 町長は、施政方針で都会のアンテナショップの建設に触れていた。私はまずは「道の駅」に「農産直売所」を作り生産者を育成し、加工品開発を進めるべきと考える。「農産直売所」建設に向けて継続的な検討をしているのか。

地方創生の中で考えていく

町長 「農産直売所」は、農林業振興・観光交流振興を担う重要な施設と認識している。現在、民間農業団体等の活動が活性化しつつある。これらの芽を育てながら農産直売所運営の機運が高まることを期待しているところである。さらに、物産館的な機能を持つものにしたいと考えているので、今後の地方創生の中で考えていきたい。



にぎわう「農産物直売」26年度文教産建常任委員会視察調査地（長野県安曇野市堀金地区）



今 康成 議員

クマ肉出荷再開の 早期実現の働きかけを!

クマ肉の出荷制限が
続いている

今 福島での原発事故の影響による出荷制限指示が平成24年9月に出されて以来、県内では出荷・流通が行われていない。

小国町では、朝日山系・飯豊山系ともに基準値を超える結果が出たことはないが、制限解除の要望は行っているのか。

マタギ文化を継承
する上で大きな損失

町長 平成26年度、27年度の小国町重要事業要望の一つとして山形県をはじめ、国および国会議員への要望を行っている。28年度に向けた早期の解除を強く要望することになっている。

また、山形県猟友会小国支部が署名活動を行っており、今年の3月に、千四百余名の署名が記載された要望書を山形県知事に提出したと伺っている。

しかし、厚生労働省が定めている制限解除基準では、

県内全市町村での測定に加え、食肉処理場を整備する必要があり、厳しい状態である。

「熊まつり」において儀式の後に振舞われる熊汁は、マタギ文化のお裾分けであり、地域の活性化に大きく寄与している。

今後関係機関に強く要望していくので、議員各位の力添えをお願いします。

東京電力に対しては
賠償を求めています

今 このような状態が続いて観光にもダメージを及ぼすのなら、東京電力に損害賠償を求める考えは。

集客に悪影響が
あつてはならない

町長 「熊まつり」の集客も主催者発表では減っている。制限解除を求める活動を、国・県・関係機関に強力に推進していく。

産業振興課長 東京電力に直接損害賠償を求める動きはない。

山形県が要望を取りまと

めて対応を行うことを基本としてしている。

里山を守る
担い手の育成を

今 従来にない野生鳥獣の被害が増えていくことが予想される。

里山を守る人材の確保や育成についての取り組みの状況は。

猟友会の高齢化は
進んでいる

産業振興課長 平成26年度10月に猟友会等が会員となり「小国町鳥獣被害対策実施隊」を設置した。

定額での年間報酬の支給、非常勤の特別公務員としての身分保障、技能講習の免除、狩猟税の減免といった特典を設け、より多くの会員を募る取り組みをしている。



地元の願いはいつ叶うのか 小玉川熊まつりの様子



こばやし よしみ
小林 嘉 議員

地域活性化対策は 空き校舎に職員配置を

地域活性化対策は どのように

小林 少子高齢化が進む一方の地域の状況をどのように捉え、活性化策はどのように考えているのか。

外部人材の活用で 対応している

町長 本年4月1日現在、15歳未満10・8%、65歳以上35・8%で、町中心部に比べ周辺地域の少子化、高齢化が進行している。

これまでは、外部人材を活用した地域づくりの推進を図ることとし、「地域資源活用域学連携事業」、「緑のふるさと協力隊」の受け入れ、加えて今年度は、総務省の、「地域づくり協力隊制度」を活用する。さらに、小玉川振興事務所を開設し、モデルづくりを展開している。国は、「地方版総合戦略」の策定を求めている。基本目標に沿った活性化策を取りまとめる。戦略から戦術、そして戦法へと着実な推進につなげていく。

情報伝達や 状況把握は

小林 町民への情報伝達や地域住民からの要望など、どのように把握し対処しているのか。

町駐在員制度や 出前町長室等

町長 町駐在員や広報紙、インターネットによる情報伝達をしている。地域住民の要望は、各種協議会、委員会などからの意見・提言、町政懇談会や出前町長室で把握に努めている。本年度は、「地域づくり座談会」

や町政懇談会等に出席が困難と思われる高齢者のみの世帯に訪問して意見を聞いている。

持続的な地域づくり 町職員の配置で

小林 空き校舎を地域づくりの拠点として活用することにより、地域住民自らの発想や行動により持続性のある地域づくりに繋がる。職員の配置を検討すべきと思うが町長の考えは。

町組織の管理体制 構築が必要になる

町長 「地域に人の支援が



地域づくりの拠点「叶水基幹集落センター」

必要」は同じ認識を持ち、外部人材の活用に加え、空き校舎には小玉川振興事務所を設置し、モデル的に展開している。各地域への職員配置は、町組織としてのガバメントと、機能的な管理体制の構築が必要になるので、休校舎の活用の方針と併せて検討する。

地域づくりは コーディネーターが必要

小林 地域を磨くのは、当事者意識を持って立ち上がった住民自身であり、そのため、「内発的にしか地域は動かない」と言われ続けている。町職員が地域に入って住民と一緒に取り組む「地域づくりコーディネーター」を置くべきである。モデル的に始めた小玉川振興事務所も3年目になる。この実践を参考に他地域でも展開すべきではないか。

町長 提言として受け止める。



まみや ひさえ
間宮尚江議員

小児科の受診時間延長を!

白い森学習支援センターの狙いは?

小児科の 受診時間延長を

間宮 小国町における小児科受診時間は午後3時までである。土日診療においては救急扱いであり、父母のみならず子育てに深く関わっている祖父母の負担も大きいものがある。そんな実状について、「子育て支援」の側面から考えた場合、小児診療の充実に対しての町長の考えを問う。

地域医療を取り巻く 環境と恒常的な 医師不足の状況

町長 少子化が進む中、本町における人口構成の推移や医療施設の状態などから考慮し、町全体で多面的な子育て支援の議論をしており、その一つとして町立病院における小児診療の提供、母子保健事業の円滑な推進という役割を整理している。

間宮 スタート地点の産科も町内には無く、冬期間の出産においては、特に負担をかけている。本当の意味での家族が願う「子育て支

援」にはなっていないのではないかと。

町長 出産に伴う負担軽減としては、通院への助成を行っている。小児科医は本町に9名派遣していただいているが、他の医療施設へも派遣されていること、医学部付属病院での勤務医での仕事等もあることから、土日まで派遣していただくことは困難である。

間宮 理解できるが、勤務医の増加を望むものではなく、2時間の時間延長を望むものであり、同じ子育てをしてきた町長自身もその負担は理解していただけたと思う。今後も町民の声をひろいながら努力していくので、内容実現に向け協力していただきたい。



予防接種を待つ親子

白い森 学習支援センターの 狙いは何か

間宮 本来基本的には学校教育は、学校で教師により成されると考えている。それを、行政がやる意味は何か。将来の小国の子どもの達のあるべき姿と教育、求めているものは何なのかを踏まえて、平成26年8月設立の白い森学習支援センターの現状の事業内容と今後のセンターのあり方を聞きたい。

新小国小学校開校に 伴い策定した新小中 高二貫教育構想であり 「人づくりこそ 町づくり」

町長 地域人材を活かして小国独自の教育推進を展開していくものである。地元企業との「パートナーシップ協定書」の締結により「サイエンス講座」を計画中である。

間宮 地域教育力への視点は評価できるが、緩やかな専門集団で成されてこそ教育の原点であると考ええる。



未来につながる小国高校へ



支援センター活動のようす

さらには、県行政が関わるべき小国高校への支援となれば、その存続問題も視野に入れていくのか。

町長 小国高校の更なる魅力づくりとして学校教育外の進学サポートの体制整備を図っていく。

間宮 立ち上げて間もないとはいえ、中高校生には時間がない。その成果を期待するものである。

新しい委員会構成決まる

議長あいさつ

高野 健人



町民の皆様には、日頃から小国町議会に対しご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

このたび、平成27年5月1日に開催されました議会臨時会におきまして、議長に就任いたしました。身に余る光栄であります。職責の重大さを痛感しております。中立、公平を旨とした議会運営に当たり、開かれた議会、議会の活性化に一層力を注ぎ、議員一致団結しながら、執行部と緊張感を持って真摯に議論をし、小国町発展の為に尽力して参りますので、今後とも、宜しくお願い申し上げます。

副議長あいさつ

安部 春美



このたび、副議長に再任させていただき、改めてその責任の重さに身が引き締まる思いであります。

議長を補佐しながら、町政の推進と議会の公正かつ円滑な運営に努めてまいり所存であります。現在、地方は多くの課題を抱えており、地方創生を見据えた独創的な思考と行動力が試される時であります。町民の負託に応えるべく、町民目線で『住みよいまちづくり』に邁進する覚悟でありますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

総務厚生常任委員会



総務企画課・町民税務課・健康福祉課・町立病院・老人保健施設等を所管します。

委員長 伊藤 重廣
副委員長 小関 和好
委員 米野 貞雄 安部 春美
間宮 尚江

議会運営委員会



議会の円滑かつ効率的な運営を担当します。

委員長 小林 嘉
副委員長 伊藤 重廣
委員 安部 春美 遠藤 和彦

文教産建常任委員会



産業振興課・地域整備課・教育委員会・農業委員会を所管します。

委員長 遠藤 和彦
副委員長 今 康成
委員 高野 健人 小林 嘉
石山久美子

議会広報特別委員会



議会広報の編集を担当します。

発行 年4回

委員長 小関 和好
副委員長 今 康成
委員 石山久美子 間宮 尚江

委員会レポート

＝ 総務厚生常任委員会

取り組み**目標**決まる!!＝

「少子化」に歯止めを!!



ほのか
小坂町 鈴木 萌花ちゃん

小さな命に
感謝

＝ 文教産建常任委員会

取り組み課題＝

「観光資源の活性化」を!!
「六次産業化推進」を!!

議 場 見 学

「広いなあ～」

気分はどうでしたか?
また来てくださいね。



小国小学校2年生のお友だち



ふるさと納税返礼品

議会広報特別委員会

山形県町村議会広報研修会

＝ 芳野政明氏 (広報・編集コンサルタント) より
「小国町議会だより」**広報クリニック**受ける!!＝
「読まれ」「伝わる」議会報を目指します!!



5月22日 山形ビッグウイングにて



議事主査
大谷 愛子

事務局長
舟山 博

主任書記
貝沼 俊明

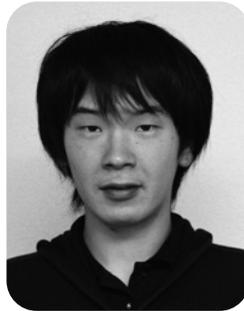
町民の皆様にも「身近な議会」を感じていただけるよう頑張ります!

議会事務局の
メンバーが
変わりました

事務局
新体制

おらも おぐに町民

町の人から
ちょっとひとこと



プロフィール

氏名 加藤 信
年齢 32歳
勤務先 (有)加藤印刷

Q 小国に戻ってきた

きつかけは？

高校卒業後、家業の印刷業とは全く違う職種に携わっていましたが、心の片隅に何か引つかかるものがあり、思い悩む日々を過ごしていました。そんなとき、実家から声が掛かり小国に戻る決断をしました。

Q 小国に戻ってきた

思うことは？

学生時代には気づきませんでした。地域の皆さんの温かさに触れ、改めてふるさとの居心地のよさを実感しています。

人との関わりをとおして様々なことを学び、これからはこの町での生活を楽しくていきたいと思っています。

Q 今、楽しんでいる？

一男一女の父親ですが、男の子と女の子でこんなにも違うのかと戸惑いながらも、かわいい子どもたちの成長を感じながら子育てを楽しんでいます。

また、子育てをとおして地域の方々との関わりが広がり、それをきつかけとした飲み会やイベントなど、そんな大人の時間も楽しいですね。

Q 小国で好きな場所は？

朝日連峰のふもと、針生平がお気に入りです。

幼少の頃、親に連れて行ってもらったのですが、細

い丸太とワイヤーで渡された吊り橋が印象的でした。大人になった今では、吊り橋よりもブナの巨木が立ち並ぶ森の美しさに魅力を感じます。そんな大自然の懐に、手軽に車で行くことができるのもいいですね。

Q 議会に対しての望みとは？

かつてUターンを決断した自分が戻ってきて良かったと思つた様に、若い人たちが小国で暮らしていきたい、戻ってきたいまちづくりに向け、より一層頑張つていきたいと思います。新しい体制の議会に期待しています。

取材メモ

6月23日に行われた、おぐに保育園と叶水保育園の交流保育の様子。

少子化が進む中、保育園の枠をこえた交流の場が定期的にもたれています。

今年度は、約80回の交流保育が予定されています。



次は9月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局(62)2448

編集後記

*統一選挙後初めての広報の発行となりました。メンバーもフレッシュな構成となり、初心に戻りより身近に感じてもらうよう頑張つて参ります。

*ようやく東北も梅雨入りとなり、乾いた土に恵みの雨が降りました。今のところ九州のような豪雨とはならず一安心です。

*7月5日(日)隣の関川村で婚活イベントが行われるということなので、議員有志で視察に行つてきます。嫁不足は地方自治体の大きな問題であります。当町も手を打たなければと考える今日この頃であります。

小関(記)

発行責任者

議長 高野 健人

議会広報特別委員会

委員長 小関 和好
副委員長 今 康成
委員 石山久美子
間宮 尚江